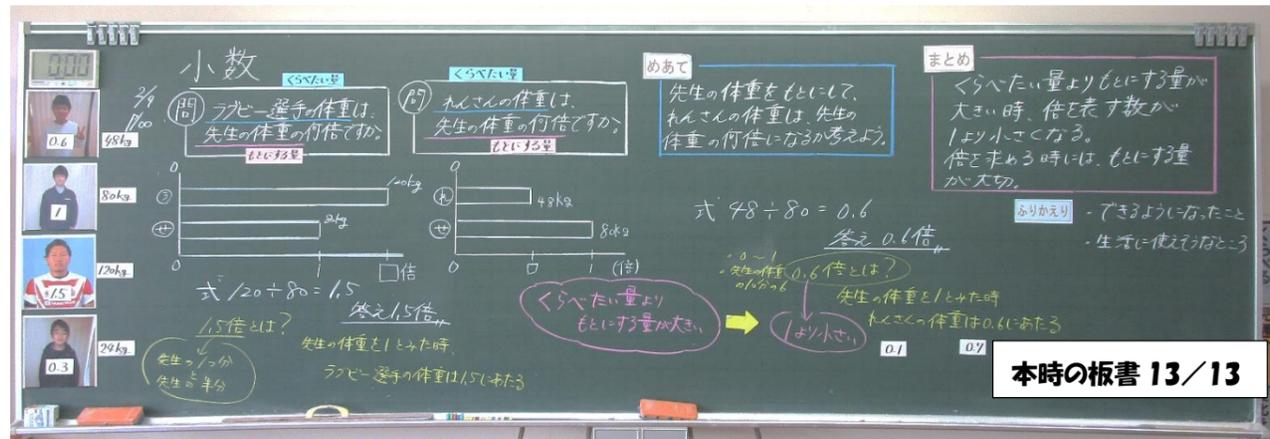


2月9日(水)は、武田先生による算数科の研究授業でした。本単元は、「小数のかけ算とわり算」で、本時は比べられる量をもとにする量をもとに小数倍で表し、問題解決する授業でした。授業と事後研究の様子をお知らせします。本時は、13/13時間目です。

単元名 「小数のかけ算とわり算」 全13時間 4年1組 武田 北斗 教諭

身に付けさせたい力：○小数の仕組みや乗法の性質などの理解の上に、小数に整数をかける乗法計算や、小数を整数でわる除法計算の仕方について理解し、それを用いる力。
○整数倍の上に、小数倍の意味についても理解し、それらを用いて数量の関係を小数倍を用いて捉える力



本時の板書 13/13



0.6は、テープ図のどこに書いたらいいのかな。1をもとにしているから…



先生の体重を1とみると、れんさんの体重は0.6倍にあたる。小数でも表せるね。

授業者のリフレクションシートより

主・対・テープ図で子どもが困っていた場面を取り上げ、つまずきをもとに展開することで、より主体的に対話が生まれる仕掛けをしていくことも大切だなと感じました。

課題・身近な児童を問題の中に取り入れたのは、問題への関心を高め解決意欲を引き出す上で、とても良かったです。次はもっと生活とも結びついた場面を考えたいです。

見・考・0倍について、色々な言葉や図を使って説明をさせることでさまざまな見方が育てられると思いました。また、テープ図の書き方についても何が基になる量なのか、しつこく全員におちるまで確かめるべきだなと思いました。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習の設定**
 - 子ども達は、主体的に声掛けしながらできていた。
 - 子どものつまずきからペアやグループ活動を取り入れていた。
 - ▼学習の展開が分かりやすいが、もっと困り感がほしい。
 - ⇒困り感をつくるために、なぜ?という疑問、間違いを修正する、根拠をみんなであげていくなどの深める活動を展開の中で仕組んでいきたい。
- 2 児童が本気になる課題の工夫**
 - ▼課題の提示の仕方によって、興味を持って取り組めたが、子ども達が比べたいことになっていたか。
 - ⇒体力テストを課題にし、県平均と自分の記録を比べるのはどうか。
 - ▼前時の学習とれんさんの問題からの気づきを取り上げるとよかった。
 - ⇒子どもの反応を生かし、見当や予想から広げる。
 - ▼問いが多かった。本時では、問2に時間をかけたかった。
 - ▼少し誘導しているところがあったため、揺さぶりがほしい。子どもにもっと任せる。
 - ▼めあてに工夫がほしい。答えを出した後、めあてを提示する展開ではどうであったか。
 - (例) 0.6倍ってあるのだろうか など
- 3 「数学的な見方・考え方」を働かせるための手立て**
 - 数学的な見方・考え方の力が身に付いてきている。
 - 数の見方の問題のパターンがあってよかった。
 - ▼式と図を関連させ、図への意識はよかったが、答えを出した時も同時に図を見直したい。
 - ▼0.6倍になるテープ図が表せていたか。
 - ⇒本時の学習をもとに、もう1時間とって日常生活とつながる問題と結び付けて考えさせたい。
 - ▼算数用語をしっかり押さえたい。(比べたい量→比べられる量)

今年度最後の、武田先生の算数科研究授業でした。子どもの反応を見ながらペアでの話し合い、グループでの活動を上手に取り入れていました。子ども達の興味を引き付ける工夫も良かったなと思います。若い先生方の中で、リーダーとなって頑張っている武田先生、お疲れ様でした。

<来年度に向けて>

今年度の算数科研究授業を通しての学びを、来年度の授業づくりに生かしていくために、グループで協議したことをまとめました。

- *目的のある対話にする→深まりへ
- *めあての工夫
- *図と式を関連させる
 - 式：立式だけでなく、意味理解まで
 - 図：便利さ、利用したり活用したりする力へ
- *系統性をおさえる
- *数の感覚を捉える(低学年から)
- *数学的な見方・考え方を捉える
 - (学習指導要領解説の「数学的活動及び思考・判断・表現から具体的にしていく」)
- *学習指導案の見直し→単元を貫く問いを子ども達と共有していきたい。

対話やめあての工夫は国語科でも取り組みたいですね。授業改善のために進めていくことがたくさんありますが、来年度も資質・能力ベースの授業を追究していきましょう!